

近代化研究会「つかしん」視察 参加者全員 コーポラの1日を過ごす

11月26日午前7時流通会館前をバスにて出発、一路目的地へむかう。

参加者は代表幹事・(株)堀川商店社長堀川善昭氏ほか19名と事務局1名を含む計21名にて出発した。

目的地到着後、全員西武関係者より“つかしん”の全容を聞き、1時間後に自由行動、午後4時帰途につく。流通会館前に帰ったのは午後8時過ぎとなった。

“つかしん”は(株)シティクリエイトが管理する西武セゾングループの総合力が実を結んだ新しい型のショッピング街である。兵庫県尼崎市塚口本町4丁目8番1号にある“つかしん”は、敷地面積59,400m²、建築面積27,000m²、延床面積118,600m²、駐車台数1,000台の規模をもっており、グンゼ紡績工場の跡地という、ほぼ長方形の起伏のない土地にあり、中央



金沢問屋センター百貨同業会 年忘れ家族懇親会

2年に1度開かれている百貨同業会の年忘れ家族懇親会は、昨年12月17日に金沢東急ホテル5階で盛大に開催されました。あいにくの雪の為、開宴が30分近く遅れましたが、辰川会長の挨拶及び乾杯に引き続いて、プリンス東陽さんの華麗なる手品の後はかくし芸大会。会員や奥様方に交って子供達も一生懸命歌ったり演奏してくれました。一息つく間もなく子供達がステージに上がり、筒の中の鈴を上から下までおろす「ジャラゲーム」に挑戦。我が子が心配でおもわず助っ人にとび出たお父さん、お母さんは一人や二人じゃありませんでした。がんばってくれた良い子達には、須田(株)の須田専務扮するサンタクロースから一人一人にプレゼントが手渡されました。(それにしても、須田さん、あの衣装お似合でしたよ)

さて本日のメインイベントはゲーム「危機一発」!! 6頭の馬(?)達が一人づつステージに上がり、ケン玉に挑み、ちゃんと入るまでは降りられません。その間頭上では風船が膨らんでいくスリル満点のゲー

には伊丹川という自然の流れがあり、街は東と西に分断されている。東街区は国際的な情報のあふれる都会の街、西街区は生活感あふれる下町の界限性に満ちた街となっていた。

施設は専門店(つかしんビル・ヤングライブ館・生鮮館・手づくり館)飲食店(ガーデンレストラン飲み屋横丁)銀行、クリニック、保険ショップ、公園、コミュニティチャーチ、つかしんホール、ホテル(昭和63年完成予定)、グンゼスポーツ、西武百貨店などがある。

その様な施設を一括して運営する為に、安全で安心な街、楽しい街、わかりやすい街、人間らしさの街づくりを考えている。その為に24時間の警備体制、赤外線センサー、高感度カメラ、夜間のガードマン巡回、防災センターのコンピュータと連動、救急車と消防車各1台配備、各テナント店舗にカードリーダーシステム、防犯、防災端末センサーシステム、ダイヤル情報での電話サービス、テレビ電話でのおたずね、CCTVにて店舗のご案内、近隣サークル活動を流すつかしんのタウンガイドTV、パソコンタウンガイド、伝言板サービス、フリーコールサービス、公衆設置キャプテン等、情報化社会に対応した色々なシステムがある。

問屋センターが未来にむかって増々成長して行く為の参考になる部分が数多くあったものと思われた。

ムです。必死でやっても関わらず思惑買いの馬券を求めた人からは「早く割れろ」の非情の声。結果は(株)タマイの玉井社長の頭上で見事に割れ、玉井家からも2枚の当たり券が出ました。尚、売出された馬券は全て石川県肢体不自由児協会に寄付されました。

おしまいはビンゴゲームによる福引抽せん会を行ない、豪華景品が渡され、和気あいの内に富木副会長の閉会の挨拶で散会しました。



金問屋センターニュース

1986.1.
No.34

協同組合 金沢問屋センター 金沢市問屋町2丁目61番地 ☎37-8585 ●発行者/小川甚次郎



年頭のごあいさつ

(協)金沢問屋センター
理事長 小川 甚次郎

あけましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え、謹んでお祝い申し上げます。

昨年の経済情勢は、前半はゆるやかな拡大基調で推移しましたが、後半は円高政策により輸出関連の業界に打撃を与え、国内経済は低成長に終始した厳しい一年でありました。

今年も予想によれば、停滞及び減速と言われており、これに対応できる企業体質の強化・充実に力を入れなければなりません。

特に高度情報化時代の到来により、急速に情報化が進展しつつある中で、中小企業の情報化は大企業に比べて立ち遅れており、この情報化問題に取り組むことが我々中小企業の将来を大きく左右するものであり、今年度は組合として積極的に調査、研究して参りたいと思っておりますのでより一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に組合員の皆様方のご繁栄を祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

'86 新年互礼会

あいにくの雨にたたられたが、協同組合金沢問屋センター恒例の新年互礼会は1月4日午後2時より金沢流通会館1階大ホールパルスで多数の来賓と組合員商社代表の参席のもとに、めでたく開催された。

国歌斉唱に引き続き、小川理事長から「企業体質の強化・充実に力を入れるため、情報化問題に取り組み、組合として積極的に調査研究して行きたい」と挨拶があった。

次いで中西県知事、江川市長、宮商工会議所会頭、奥田、森両衆議院議員、安田、嶋崎両参議院議員より祝辞を賜り、宇野県議会議員の発声の下に乾杯を行い、祝宴に移った。美妓のお酌で話がはずみ、宴たけなわの処、末岡市議会議員の音頭で万歳三唱し、本年も盛況の内に終了した。



年男大いに語る

虎歩のごとく力強く



理光商事株式会社
社長 田川 孝三

今年の景気はどうかということが、企業人として一番気になることである。日米通商問題の多くが今年に持ちこされ、日米経済摩擦が一層深刻になるという見方が多い。また、昨年秋より始まった円高、ドル安が更に進み、1ドル160円という厳しい見方もあるが、一般的に180円という見方が多く、この円高で輸出の減少と長丁場であった景気上昇にストップがかかり今年の景気見通しも不透明であるように思われる。この経済状態の年に年男でありますので、年頭にあたり今年は何かしようといういきごみが出てくる。過去の寅年のことを思い出して見ると年男の年にはなにか人生のフシに当たっているように思われる。

現在の会社を設立したのも寅年、中学校の入学も寅年と何かフシにきているように思われる。虎は「一日千里を行き、千里を帰る」「虎穴に入らずんば虎子を得ず」と昔からいろいろな諺があるが、虎に翼のたとえのごとく千里行ってさらに千里前進、龍蟠虎据と事業を充実させていきたいと年頭にあたり思っております。しかし一方では寅年の人は考え深く慈悲もあり人の長と敬まれもするが、かえって高ぶり過ぎ、剛情我慢が強く気まがちでとかく争いがちであるともいわれているので、年男で今年はこのいきごみも厳しい経済状態を考えると、あまりの「リキミ」すぎも少し考なければいけないと思うが、当社も来年は設立二十五周年を迎えるので、次の五十周年に向け虎のように一日千里をかけるつもりで進みたいと思う。本年は特に基盤をしっかりと二十五周年を迎える年となることを願い、そして人生も社業も、「虎は死しつも皮をのこす」ように、虎歩のように力強く一年を歩きたいと寅年の年頭の決意としております。

虎年雑感



株式会社 寿商会
社長 若林 智雄

明けましておめでとうございます。

昨年は阪神タイガース、虎フィーバーにくれ、新春を虎年にあけました。各位様には今年も一段とご指導をお願い申し上げます。

私、昭和13年の虎年生れ、「48才の抵抗」という映画もありましたが、年にも不足のない年令となりました。

正月、ねころがってテレビを見るでもなく横にあった小学館の国語辞典をひらいて、虎に関する格言を上げてみますと、「虎の子」、「虎の巻」、「虎の威をかる狐」、「虎の尾をふむ」、「虎視たんたん」、「大虎、(よっぱらい)」、「前門の虎、後門の狼」、「虎は千里を行って、千里を帰る」、「虎に翼」、「虎の子渡し」、「虎をえがきて、犬に類す」、「虎を千里の野に放つ」、「虎は死して皮をのこす、人は死して名をのこす」、まだまだありますが、虎年にちなんで強運のようです。

さて61年度も円高不況が兆す中で幕明けとなりましたが、経済環境は一段と厳しいものになりそうです。各種経済見込みを見てみますと、GNPは前年の5%UPから4.2%UPの下降見込みとなり、特に公的需要は-1.4%、又輸出は前年の15.8%UPから4.3%UPへ大きく下降、又輸入は前年度の10%増から原油の減少などから逆に0.5%の-へ落ちこみ、貿易収支の黒字は却って大幅に増加し、一段と経済摩擦が強まり、政府が内需拡大をさげび、民需を高揚、又公共投資の75%を9月までに発注を発表、GNPは4.2%成長から一段下って3.1%が予想されております。しかし、中曽根さんが年頭に言われた「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の言葉通り、本年は一段ときびしい環境の中、力強く、勇気をもって飛躍の年にせねばならない虎年です。



ABC作戦で今年を突破

共栄電機株式会社
常務 高桑 幸一

新年あけましておめでとうございます。私が昭和49年5月に金沢へ来てから12年を経ました。ちょうど十二支が1回りした事になります。月日の経つのは早いものでこの12年間あっという間に過ぎ去った感じがします。

私の育った昭和30年代は「三種の神器」洗濯機、冷蔵庫、白黒テレビが出て、40年代には、カー、クーラー、カラーテレビの「3C」が出て、私達の生活を大きく変化させました。まさに高度成長期であった訳です。ところが昭和50年代に入りこの3Cに変わるものがあつたかという見当たるものがなかった様に思います。特にこの10年ではコンピュータ技術の革新でエレクトロニクス関係は目を見張る勢いで日進月歩というより、秒進日歩で目まぐるしく変化しておりますが、その反面生活面においてはこの10年間というのは大きな変化はまったく起きていないのではないのでしょうか。買いたいものはすでにほとんど買ってしまい飽和感を抱いております。考えてみますと私は生活者の物品販売をいたしておる訳ですが、商品が売れた時代から売っていかねばいけない時代、今迄になく厳しい時代に入っております。1960年代は消費者、70年代は生活者、そして80年代は創造者、個生活の時代といわれ、量から質、質から個性と消費者ニーズも変わってきております。

現在非常に厳しい環境下にある訳ですが、今年度私共の会社の社長方針でありますABC作戦『A(アクション・行動)、B(ブレイン・頭脳)、C(コミュニケーション・コンピュータ)』でもって、この難関を突破していきたいものと考えております。

私も本年、寅年ということで一つの大きな「フシ」の時であります。ことわざに、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」というのがあります。いつの時代でもいろいろな問題がある訳ですが、過去私達の先輩達が幾多の難関をその都度立派に乗り切ってこられた様に、厳しい環境下の中で、この気持を忘れず一年過ごしたいものと思っております。



実りのある年に

荒木商事株式会社
専務 荒木 徹

1986年・虎年。虎年は変化の激しい年であるといわれていますが、24年前は佐藤内閣誕生で、長期安定政権の年になったと記憶しています。又12年前は、石油パニックの状況下において、原料値上げ・割り当て販売制などメーカーの販売姿勢に疑問がもたれ戦略を方向変換する事で安定企業への足場がための年ではなかったでしょうか？

さて本年は、昨年からのニューメディア時代。OA化の流れをうけて、さらなる飛躍発展確立の年であると考えております。情報武装化に伴ない、卸売業の新しい流れの時代、つまり流通革命の時代であり、問屋としての真価の間われる年であると確信しております。情報を一つの切り口とし、物流・倉庫・金融などの各機能における差別化をはからなければ生きのびる事のできない時代なのではないでしょうか。又、その差別化を明確にすべき地盤をつくるための出発の年にしたいと思っております。

街づくり・都市づくりのためのイベントの必要性、人を呼ぶことにより物の流れを作り出す時代であるとも思います。催事を行ない売りに結びつく売場作りの企画提案をする。これらの機能をそなえていかなければ、問屋として、このきびしい時代の競争に勝ち残る事ができないのではないのでしょうか。

今年はやらなければいけない事の非常に多い年であると思います。何を優先して行なうかをじっくり考え、一つ一つの実のある年にしたいと思っております。「虎」というイメージから「強さ」を連想いたします。その強さに知恵をプラスし、力と頭のバランスをとる事で、この激動で先行きのきびしい時代に安定性のある企業として永続をはかるべく対処をしていくつもりでおります。年男という事で本年の抱負を語るにあたり、とりとめのない事を書かせていただきました。これを期に本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

団地内違法駐車取り締まりについて

問屋町交通安全対策協議会(玉井義昭会長)は、60年10月に「問屋町交通5訓」のポスターを作製・配布し、問屋町での交通安全を呼びかけていたが、依然として違法駐車が見受けられていた。

そこで11月の理事会において、団地内の違法駐車取り締まりの強化が決議され、以後警察署が取り締まり、罰金及び反則点が課せられることとなった。

11月中に実施され、その結果は以下の通りであった。

現場注意	29件
誓約書	25件
検挙	3件
計	57件

検挙(罰金5,000円、点数1点)の内容は、北國銀行角交差点の横断歩道に駐車、歩道上に縦駐車及び呼び出し状に応じなかったものであった。

今後は一層の取り締まりの強化が予想され、今春からはいわゆる青空駐車(社員の車で、駐

SAFETY DRIVE

- 1 問屋町団地内では40km/h以下で走行!
- 2 交差点では一旦停止、又は徐行して左右確認!
- 3 交差点から5m以内(黄線)駐車禁止!
- 4 右側駐車、斜め駐車、歩道駐車、二重駐車禁止!
- 5 荷受けの大型車両は中央線にはみ出さないで道路に平行に駐車して荷おろしをしよう!

交通安全5訓

問屋町交通安全対策協議会

車可能な路上がうまり、来客の車が交差点附近等の駐車禁止場所に駐車することになる)も合わせて実施するとのことである。

「青春讃歌 はたちのつどい」

1月15日、金沢市本多町のMROホールで'86MRO成人の日フェスティバル「青春讃歌・はたちのつどい」(共催・石川県和装振興会)が開かれ、好天にも恵まれて、新成人約300名が参加した。

ほとんどが振袖姿の女性とあって会場は華やいだムード。協賛社によるメイクアップ教室や歌手の倉沢淳美さんのオンステージ、ゲーム大会などもりたくさんの内容で、最後に乗用車の当たるお楽しみ大抽選会があり、ビンゴゲームの数字が発表される度に歓声があがっていた。



昭和61年の経済見通し

北國銀行問屋町支店
支店長 金榮俊二

新年おめでとうございます。

昨年のわが国経済を顧みますと、景気のリード役であった輸出が米国経済の減速から伸び悩みとなりましたが、内需は民間設備投資が着実に増加し、個人消費も比較的順調に推移するなど、全体として景況は緩やかな拡大過程を辿りました。その間の輸出環境をみますと、年末にかけドル高是正のため為替相場の円高誘導などの措置がとられ、本年に向け波乱含みの様相となりました。

一方、県内の景況を顧みますと、機械鉄工関連は繊維機械や電子工業などが年央より徐々に軟化傾向となりましたが、全体としては順調な設備投資に支えられ堅調に推移しました。しかし、繊維関連では織布業が市況の低迷から不況色を強め、個人消費も今一つ盛り上りを欠くなど業種間にバラツキがみられ、回復感の乏しい景況が続きました。

すなわち、織布業界では、年初来在庫買上げや織機の共同廃棄など相次いで不況対策が実施されましたが、すでに構造的問題となっている生産過剰体質の改善ができず、加えて買上げによる凍結在庫が市況回復の圧迫要因となるなど、量産定番品を中心に厳しい状況が続きました。また、機械鉄工関連では、建設機械は主力の中近東市場の冷え込みから相変わらず低調に推移し、好調を持続していた繊維機械は年央より北陸産地の低迷に加え輸出も韓国など主力仕向地の合繊不況から、さらに電子部品関連も需給バランスの崩れから、夫々軟化傾向となりました。しかし、プレス・工作機械は根強い能力増強あるいは合理化投資を背景に引続き好調を持続しました。こうした情勢の下で、個人消費は賃上げやボーナスの伸びが全国平均を下回り、依然所得が伸び悩んだことから、今一つ盛り上に欠けました。こうしてみると、昨年の県内の景況は依然業種間で明暗を分ける形となり、回復感の乏しい状況で終結する結果となったものと思われま

さて、本年の見通しであります。円高の影響から輸出の鈍化は避けられません。また、設備投資は非製造業に比較的底固さがみられますが、やはり輸出関連産業を中心に増勢が鈍化するものと予想されます。さらに個人消費については、最近企業収益が頭打ち傾向となってきていることなどから、春闘に大きな期待が持てず盛り上りを欠くものと思われま

す。この様な情勢から、本年の国内景気は、財政、金融など政策面からどれだけ内需拡大に手がうたれるかが鍵となると思われま

一方、県内につきましても、主力の繊維や機械関連の輸出依存度が高いだけに間接的ながら円高の影響を避けることができないと思われま

先ず繊維については、すでに年末にかけ輸出成約の停滞がみられ、本年早々から受注、工賃両面に影響が出てくるものと考えられます。特に織布業では、韓国、台湾との競合下にある量産定番品の打撃は大きいと思われ、さらに織布業界の整理淘汰が進むと予想されます。また、機械鉄工関連でも、全体として昨年央より受注が下降傾向にあり、円高がそれに拍車をかけることにもなりかねません。こうした中で、個人消費も引続き多くを期待できず、県内の景況にやや停滞感が広がることも予想されます。

この様な経営環境の下で、企業経営者は技術力の向上に加え、さらに合理化の徹底によりコストダウンを図り、不況に強い経営体質の改善に努めることが重要と思われま



情報武装型卸売業

流通政策研究所

専務理事 宮下正房

これからは情報化時代といわれているが、情報活動を個々の企業はもちろん、組合活動の目玉としていけば、組合、企業の両方に成長をもたらしてくれる。卸売業の個々の企業が情報で武装し、組合も情報武装型卸売組合をつくりその両面が備われば非常に強い体質になってくる。

卸売業の問題点

- ①卸同志の過当競争＝卸の構造問題
- ②得意先の売上低迷＝小売の構造問題
- ③物流コストの上昇

問屋・流通が変る要因

- ① 環境変化によって変えさせられる

小売の環境変化、都市の変化、消費者の変化などがある。消費者ニーズの変化に取扱商品が合っているかないかだが、卸の場合、ニーズに合わせて中心商品を頻繁には変えにくい。情報が消費者の変化をつかむ手段であり、情報技術の進展は大きな環境変化である。

- ② 環境を先取りして自分の経営の中に戦略として生かす企業の行動が古い体質を駆逐する
- 新しい経営戦略、新しい投資が流通を変えていく。コンビニエンスストアはなぜあそこまで成長したか。生活用品を扱う店が24時間開いてほしいという消費者ニーズがあったからである。あるコンビニエンスストアは30坪の売場に3000品目の商品があり、POSで単品管理を行ない、1週間毎に売れ筋商品を変えている。そのため常時5000品目のリストをもっている。

卸の情報活動には ①情報収集活動 ②情報処理活動 ③情報伝達活動 ④情報を経営に活かす活動の4つがあり、高度情報化とは、これらを高度なネットワークで処理していくことである。

情報化で日本の流通機構はどう変わるか

- ① 帳合変化

販売店からの情報ネットワークが構築され、取引が特定の間屋に集中化され、帳合からはずされる間屋が出てきて、卸売機構の再編成が行なわれる。

- ② 商物分離の流通システム

情報ネットワークができることによって、物流が従来のネットワークからはずれ、商流と物流が分離してくる。メーカーや小売業が運輸業者と手を組み、卸の物流機能が低下する危険性が起き、新しい物流システムが卸とは無関係につくられてくる。

- ③ 協業化、共同化、グループ化という流通活動が活発になってくる。

- ④ 多元的流通＝無店舗販売が盛んになる。

情報武装型卸売業ビジョンとは

- ① オンラインによる受注システムの合理化

問屋が主体となったシステムをつくり、小売店が参加できないなら、セールスがポータブル端末をもって注文を受ける。補充注文はできるだけオンラインで受ける。(補充注文を聞くだけのセールスマンは単なる“ご用聞き”である)。

- ② 情報処理にあたって一番の基礎になるのは低コストのオペレーションシステム
- 単品在庫管理システム、ジャストインタイム納品、小分けピッキング、物流システム、高頻度配送を効率的に行なう為に必要となってくる。
- ③ データベースを用いて情報を提供するシステム
- データとは事実をデジタル化、統計化して分析、判断するものでこれに情を加えたものが情報である。データと情報とは異なり、得意先を指導・支援するには情報が必要である。

小売店の売上低迷が問屋の売上低迷の大きな要因となっているが、問屋の機能として得意先の売上活性化を考えていかなければならない。それがリテール・サポート・カンパニーといわれる所以だが、全ての得意先をカバーすることはできないので、重点的にサポートしていく。どの程度支援できるか、それがこれからの問屋の戦いとなってくる。相手にするのは消費者で目標は最終市場である。

データや情報は共同で集めて、共同で見ると。それを経営に生かすか生かさなうかは企業の戦略の問題であり、人間の問題である。情報化時代といえども主役は人間である。機器を駆使するセールスマンや仕入担当が良い仕事をするには情報で武装しなければならない。コンピュータやデータなどの情報化は黒子で、主役であるセールスマンや仕入担当者のために、その黒子を用意してあげなければならない。

地域のデータを個別企業でもつと大変なので、共同でデータベースをもち、団地で情報センターをつくるべきである。そうすれば共同配送や共同保管もやりやすくなり、強力な品揃えセンターや物流センターをつくることも可能である。

卸商団地ができてから20年になろうとしている。量的成長は確かにしているが、質的成長は今ひとつではないか。共同事業がなかなかすすまないのは、問屋の経営者には先行投資をしていくチャレンジ精神が少し欠けているからではないだろうか。物流と情報を握ったものは必ず勝つので、情報をテコにして団地の質的成長をもう一歩すすめてほしい。

